

# 知識、技術身に付け成長を

入校から三カ月

令和六年七月、入校から三カ月が経ち、学生たちは新たな学び舎での生活にも慣れてきた様子である。彼らの教室でのやり取りは少し前の緊張した様子を感じさせない。

そんな中、特に元気にクラスメイトとやりとりを交わしている小坂君はよく目に映る。

学校の門をくぐる学生たちには様々な背景があり、十色の人柄があるといつてよく、小坂君もその一人である。彼は高校の時よりも専門

の知識、技術を身に付けたいという思いから当校への入校を決めた。「明確な思いはまだないが、就職に向けての準備として、資格をたくさん取りたい」と初々しく担任の指導員に語ったことは、まだ記憶に新しい。

「高校の時より触れる機械の種類が多く、さらに機械に触れる時間(実習)が自身の予想より多いことに驚きがあった。機械に触れて作業をする実践的な授業を通じて機械加工に興味や楽しさを感じら

れるようになった」と話す。これからは「仕事にしてみた」と考えている機械加工や測定分野への知識と技術をより深めていきたいと考えているようだ。

秋田職能短大ではオープンキャンパス等で入学前にこれらを伝えているところではあるが、小坂君の言を得て、実際に体感することで真に「実学専重」の精神を理解できるのかかもしれないと改めて考えさせられた。

体験授業などを通して一部を感じることが出来る。そんなことから「大館は落ち着く場所、遊ぶ場所も知っていいところだ」と小坂君は話す。就職活動の際は大館市内で職を探すことも視野に入れている。大館市内という範囲でも製造に関する企業は複数あり、選択肢は狭いわけではない。またどんなものを作りたいかということも決まってい



秋田職能短大

生産技術科

小坂

あきら  
土さ  
ん(二年)



旋盤加工の成果物を手にする小坂さん  
(左から2番目)

あることを裏付けているように見えた。このことから、是非これから学びの道を究める人には、自身の経験から培った学びを大切にしたいと

味を持つかに注目していきたい。そして希望が叶うよう、指導員一同彼をサポートしていく所存である。

### 将来の目標

小坂君は二年後(短大修了時)には、「今より知識、技術を身に付けて、人として成長して大人になりたい」と答えた。また職についてから(中堅層)にあると考えられる。十年後については「アイツできるな」と周りに一目置かれるようになりたいと答えて、どちらの答えからも周りから必要とされる、評価されることを求めているように感じた。その意識は高校時代からの努力によって築き上げられた自信によるものであると感じた。

卒業まであと一年半、もう一年半しかないとも言える。

あと半年も経つうちに、就職に向けての準備も始まる。これからと言いつ時期はもう過ぎ去っているかもしれない。

秋田職業能力開発短期大学校  
生産技術科

講師 野村 祐輔